

日本の捕鯨船によるシーシェパードへの手榴弾による攻撃 — 三名が軽傷

シーシェパード・スティーブアーウィン号のキャプテンに命中
その他カメラマンクルー一名、クルー一名に命中

15:45 (G.M.T. 04:45) 時間、シーシェパード・スティーブアーウィン号と、日本捕鯨船・日新丸との衝突が激化し、日新丸に乗船していた日本の海上保安官がスティーブアーウィン号のクルーに向けて手榴弾を投下しました。

手榴弾の一つがスティーブアーウィン号のキャプテン・Paul Watson の胸に弾丸は命中しましたが、幸運なことにその弾丸は彼が着ていた防弾チョッキにより食い止められました。

弾丸は彼のちょうど左胸、心臓に命中しているところでした。

彼が防弾チョッキの下に着ていたセーターの左胸に付いていた反密猟（漁）を意味する鉄でできたバッジが破損したところがそれを証明しています。

スティーブアーウィン号のドクタークルー、Dr. David Page が防弾チョッキから弾丸を取り出しました。

Dr. David Page がキャプテン・Paul Watson の防弾チョッキから弾丸を取り出しながら「弾丸が命中したね。」と言っている様子がビデオに収められています。

防弾チョッキと反密猟（漁）を意味するバッジが彼の命を救ったのです。

その他 Ashley Dunn(35歳、オーストラリア・タスマニア州出身) は手榴弾が爆発するのから逃げようとした際に腰に怪我をしました。

また、Ralph Lowe(33歳、オーストラリア・メルボルン出身)は手榴弾が彼の後方で爆発した際に、背中に怪我を負いました。

日新丸の日本人クルーはシーシェパードが捕鯨行為を食い止める為に彼らのデッキに向けて腐ったバターを投げたところに対して、今回反撃してきたのです。

スティーブアーウィン号が日新丸を見つけ、鯨保護区である南極海での彼らの違法な捕鯨を食い止める為の衝突は一週間に渡ります。

同日の 08:00 (G.M.T. 19:00)には日新丸に対してフランスの海域から出るように呼びかけたところ、彼らはその指示に従い、転回し方向を西に変えてオーストラリア海域に向けて進み出しました。

この衝突はオーストラリア海域内、南緯 63 度 41 分・東経 133 度 27 分の位置で行われました。

この衝突を収めたビデオ及び写真はシーシェパードのヘッドオフィスに送られます。